

「佐久市立地適正化計画」に係る住民説明会実施結果

1 開催日時	平成28年12月12日	野沢会館	午後7時～
	平成28年12月13日	市民創錬センター	午後7時～
	平成28年12月15日	浅科支所	午後7時～
	平成28年12月19日	あいとぴあ臼田	午後7時～
	平成28年12月20日	望月支所	午後7時～

2 出席者人数 60名

※内訳	野沢会館	17名
	創錬センター	7名
	浅科支所	9名
	あいとぴあ臼田	17名
	望月支所	10名

3 質疑応答の状況

(1) 提出された意見 11名 24件

※内訳	野沢会館	5名	11件
	創錬センター	2名	8件
	浅科支所	1名	1件
	あいとぴあ臼田	2名	2件
	望月支所	1名	2件

(2) 提出された意見の概要とそれに対する市の考え方

※別紙のとおり

「佐久市立地適正化計画」住民説明会での質問・意見

開催日	会場	質問・意見の内容(要旨)	佐久市の考え方
1 12/12	野沢会館	この計画を進めることで、20年後はどういう佐久市にしていきたいのか。ビジョンはあるのか。	資料の5ページに計画目標年度と評価指標の記述がありますが、20年後にどうなっているかということはこちらで示しておりません。具体的なものというより抽象的な表現であり、その中でも評価指標を一定の目安としていきたいということです。この指標がどうなっているかという事を判断し、計画自体の進捗を判断していきます。加えて5年に一度この状況を把握するという事で、指標を中心に確認していきます。
2 12/12	野沢会館	3つの指標が達成できた場合はどうなるというのがあるはず。用途地域内に人や物、インフラが集中して、それ以外のところはゆるやかな誘導を持って用途地域外の拠点を維持していくという話だが、結果的に用途地域外がどんどん寂れて人がいなくなってしまう印象を受ける。	3つの目標を設定する中で将来都市像の快適健康都市を目指していきたいというものです。周辺部の人口減少を良しとしているわけではなく、用途地域外においても各拠点の便民施設を維持することで周辺が活かされるまちづくりを目指します。
3 12/12	野沢会館	20年後目標達成した時、佐久市の人口分布はどうなるのかというシミュレーションは行ったのか。	何もなかった場合のシミュレーションはしています。そうならないように、この計画をやったことで減らさないと言えませんが、現在の利便性を保たれることを目指します。
4 12/12	野沢会館	居住誘導とあるが、市営団地や市営住宅は誘導区域から外れている。もう少し積極的に市が関わるのか、あるいは空き家バンク程度の緩やかな住民主体の誘導を目指すのか。佐久市は広いため交通拠点が重要だが、市としては交通拠点をどこに持って行ってどう繋げるか、その将来図は今の時点で描けているか。	立地適正化計画は、市営住宅等を前提で考えておりません。空き家については現在空き家調査を実施しており、来年度に対策を立てる予定です。立地適正化計画自体、強制を伴う制度ではなく、区域外に開発をする場合には、届出をいただく程度であり、団地があるからといって、あえて区域にいれるようなことはしていません。交通拠点に関しては、6つの拠点を定め、交通の結節点としてそれぞれを結びます。基本的には基軸になる所を循環させる予定です。

開催日	会場	質問・意見の内容(要旨)	佐久市の考え方
5 12/12	野沢会館	<p>何もしないとさびれていってしまうが、その分布が一定程度緩和されるとい方向性を目指しているのか。</p> <p>もしそうならば、この計画が達成された時のシミュレーションを示すことでこの政策をより市民に理解してもらえと思う。この計画の主旨が、今賑わっている所に人が集まるものではないか、と周辺部の人々は危惧している。それにいまひとつ答えられていないのではないのか。</p> <p>佐久市の全体人口は変わらないことが前提であれば、それ以外の所はおのずと人口は減るが、最低限の利便性を確保するものなのか。</p>	<p>立地適正化計画の誘導区域は、制度としては基本的に用途地域内に定めるものとされていますが、佐久市は用途地域が市域全体の3%くらいしか無いため、そこに全部の人口を集めるようなことは考えていません。それとは別に「小さな拠点」を定めることで、人口が減る中でも、用途地域外の利便性を維持していきたいと考えています。</p>
6 12/12	野沢会館	<p>20年後のシミュレーションを出してはどうか。具体的な目標として出された計画として出される以上示した方がよい。市内で格差が広がることを不安に思う人も多い。それを払拭するためにも、シミュレーションを示すことは有効だと思う。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。</p> <p>シミュレーションは、20年後どういった動きになるか分からないため、前提条件の設定が困難です。施策を示すのみでご理解いただきたいと存じます。それとともに周辺部については公共交通のネットワークでカバーします。</p>
7 12/12	野沢会館	<p>空き家バンクを意識しているようだが、耕作放棄地もかなり見受けられる。周辺の地域と農地については密接な関係だと思う。農業をどう維持するか。</p>	<p>6ページに、「コミュニティ拠点として位置付け、優良農地～」とあるように、あくまで農振地域を守っていきたいと考えております。人口が減少する中で農地を宅地化するのは、立地適正化計画としては望ましくないと考えております。既存の居住地域の中でそれ以上拡散しない、あるいは一部集約していくように努めます。</p>
8 12/12	野沢会館	<p>立地適正化計画は農業と切り離されているように感じるが、産業と一体に考えないとうまくいかないのではないのか。</p>	<p>立地適正化計画は、居住する範囲の施策です。</p> <p>佐久市の計画の体系として、全体を包括した計画として、本計画の上位計画に、佐久市総合計画や佐久市国土利用計画が位置付けられ、都市計画や農振計画との総合調整の役割を担っています。</p>

開催日	会場	質問・意見の内容(要旨)	佐久市の考え方
9 12/12	野沢会館	計画を立てるときに大事なことは設定条件だと思うが、今日伺った話だと現状をベースに計画を考えていると思う。20年後には佐久市にはどんな資源があり、それらを最大限生かして融合するようなシミュレーションがあって、マスタープランはこういうのがある、と示してもらえると皆安心して聞けると思う。	資料6ページに、広域交流拠点をはじめとする拠点ごとに、抽象的ではありますが、まちの姿を示しています。加えて現在、都市計画マスタープランの第2次改定を進めており、そこでより具体的な将来都市像をお示しできるかと思えます。都市計画マスタープランと立地適正化計画とペアで将来の都市の考え方を示していきたいと考えています。
10 12/12	野沢会館	まち・ひと・しごと創生総合戦略はどのような方向性で進めているのか。	佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略は昨年10月に策定されており、人口減少社会の中で一定の維持をしていきたい、人口をなんとか増やしたいということで行っている施策です。佐久市においては雇用による交流定住人口の増加や子育て世代に対する対応など色々な施策を始めているところです。一年目なので成果はこれからですが、例えば目標として出生率を1.59から1.69へ上げるものがあり、これに基づいて出産費用の補助や保育料の第3子目以降無料化などの施策を行っています。
11 12/12	野沢会館	佐久市の資源をどう考えるか。私は、星空や高原が連なる風景も資源だと考えている。それらをうまくリンケージして観光都市にしていけばいいのではないかと考える。いずれにせよ、20年先の具体的な目標を掲げて邁進し、3年程度でチェックをし、次のアクションを起こしていく、その繰り返しが必要ではないか。	佐久市の資源としては、医療関連施設の充実に伴う健康長寿や、公共交通の結節点として、新幹線、高速交通の充実、そこが佐久市の一番の特徴ではないかと考えています。観光都市というのはご意見として承ります。20年後の目標ということで、今後の方針については、改定中の都市計画マスタープランで示してまいります。

開催日	会場	質問・意見の内容(要旨)	佐久市の考え方
12 12/13	市民創錬センター	資料3ページの誘導区域の設定案を見ると、浅科・望月は人が住んではいけない地域なのではと感じてしまう。	誘導区域は基本的に用途地域内に設定するものですが、4ページに用途地域外の区域についても考え方を示しており、集落の中で便利施設がある場所、拠点と思われる場所については、国交省、総務省で示されている「小さな拠点」のイメージに基づき、コミュニティ拠点を設定しています。
13 12/13	市民創錬センター	誘導施設の表の中に小中学校が無いが、これはどう考えればよいのか。	小中学校は拠点だけでなく、市内全域に立地していることが必要なものであり、誘導施設にはなじまないということで外してあります。
14 12/13	市民創錬センター	具体的にどういう風に居住を誘導するのか。どういう場所で、どのタイミングで、あるいは集団なのか個人なのか、また市はどういった支援をするのか。	インセンティブ等によるゆるやかな集約を考えています。強制的な居住の移動は全く考えていません。都市機能の充実が居住の誘導を促すといった観点で誘導を図ります。
15 12/13	市民創錬センター	目標設定で20年後にも、居住誘導区域内人口を維持していくとあるが、そうなると山間部の人口減少は大きなものになる。東、浅科、望月は人口が減る中で、生活の水準を維持していくとあるが、人口減をどう想定しているのか。また、住み続けたい場所で暮らし続けることを保障すると言うが、例えば下水道の維持管理には大きな投資が必要となる。これを維持し続ける覚悟はあるのか。都市機能を充実させることについてどの程度投資をしているか。	集約の考え方として、居住が拡散傾向にあり、周辺部に広がってしまっているのを抑えたいというものがあります。人口が全体で一律に減少した場合、市街地の拡散につながるため、自然的土地利用や農業的土地利用と居住地域とのメリハリをつけ、それにより市街地の密度を維持したいと考えています。下水道については、今あるインフラをなるべく維持していきたいと考えていますが、統廃合も当然出てまいります。都市機能を充実させることについて、樋橋地区等の決まったものしか把握していませんが、これから誘導していく新たな投資については、本計画は総合計画の下位計画であるため、実施計画の中で、今後具体を位置づけてまいります。

開催日	会場	質問・意見の内容(要旨)	佐久市の考え方
16 12/13	市民創錬センター	望月・浅科は中心部に比べ施策の書き込みがかなり大雑把で内容が薄い。中心部に関しては、広域交流拠点、中心拠点と分けて考えているが、用途地域外の拠点についても、もっと小さいレベルで差別化して丁寧に施策を位置づけるべき。「小さな拠点」はあくまでもモデルにすぎない。	説明用資料に関しては施策の一部を抜粋したもののなのでご理解をいただきたいと存じます。
17 12/13	市民創錬センター	日本図書館協会では、図書館は中学校区にひとつの基準を示しており、子ども議会でも同様な指摘があった。図書館の立地について、地方では距離が一番問題になる。佐久市は大きな本屋が無いこともあるので、図書館が必要。図書館の位置づけを考えれば小学校をどう配置するかも見えてくる。	図書館については、現在の立地を尊重するものとして、誘導施設には位置付けておりません。ご意見として承ります。
18 12/13	市民創錬センター	農村ではこのまま放っておけば家が一軒一軒無くなっていき、何かあっても駆けつける人がいない、車を運転できる人がいないということになってしまう。だから移転は必要と考えるが、そういった人たちがバラバラに移転すると、もともとの地域コミュニティが失われてしまう。強制ではないが、集落ごとに、まだあまり酷くない時点で、少なくとも検討することは必要だ。日本各地にそういう例があるので、『撤退の農村計画』など色々な本を読んで勉強してほしい。	ご意見として承ります。
19 12/13	市民創錬センター	計画をつくる中で、240区全部を歩いたうえで提案しているか。計画をつくる当事者が、地元で足を運んで佐久市の現状を確認して案をつくってほしい。	素案の作成にあたっては、区長会をはじめ、民生委員など様々な分野からの意見を聞きながら作業を進めてきました。ご意見として承ります。

開催日	会場	質問・意見の内容(要旨)	佐久市の考え方
20 12/15	浅科支所	説明を聞いて、一部地域だけ重点区域とするような傾向が今でもあると感じている。人口密度が高くない地域に住んでいる者としては、人口密度が高く、声の大きいところに投資が行っているように思える。佐久市全体の中で、住みやすさということを考えて、小さな声も取り上げてもらいたい。	立地適正化計画の考え方自体は、用途地域内を対象として誘導区域を設定するような制度ですが、市全体のバランスを考えなければならないという中で、浅科や望月の中心部や、小学校区単位などにも拠点を配置したいと考えています。それぞれの地域が暮らしやすい場所になることを前提としているので、どちらかの地域の要望が強いから、その場所の施策を厚くするということはありません。
21 12/19	あいとぴあ 臼田	佐久平の樋橋地区が都市機能誘導区域に入っている。聞くところによれば、この計画はリゾート地域のようなものになるそうだが、具体的にはどういう計画になっているのか。	樋橋地区は、佐久平駅周辺の区画整理をしたエリアの南側に位置する地域。面積は約20haで組合施行の区画整理によって、新たなまちづくりを進めています。現在、樋橋地区まちづくり検討委員会にて、信州大学の教授をはじめ、まちづくりの専門家を招きながら、どのようなまちにするか検討をしています。これまでの検討の経過としては、交流人口・定住人口増加につながるもの、まちひとしごと総合戦略の地域の活性化につながるものが望ましいと考え、具体的にはホテル・住宅・商業施設など多様な施設が入る中で、人を呼べる吸引力のあるような場所にするのを、市から提案したことがあります。
22 12/19	あいとぴあ 臼田	①コスモホールの周辺に新小学校の建設予定があるが、(仮称)臼田インターチェンジ周辺に工業団地をつくと新聞記事で読んだ。新小学校の周辺に工業団地等をつくる場合は、よく検討して地元の意見も聞くようにしてもらいたい。 ②新小学校周辺は、現在、用途の色塗りがされていないので、何らかの用途を指定して、工業団地をつくらないようにしてもらいたい。	①担当部局にお伝えします。 ②小学校に近接して望まない施設の建物が想定される場合には、特定用途制限地域などによる制限を検討してまいります。

開催日	会場	質問・意見の内容(要旨)	佐久市の考え方
23 12/20	望月支所	今、縦割りの形で、都市計画の方でこの計画を立てていると思うが、例えば望月で言えば、望月高校や川西赤十字病院がなくなるのではないかなという声も出ている。そういったものはなくしたくないと考えているが、そのためには都市計画以外の分野との横の連携も必要だと思う。	立地適正化計画は、医療や福祉、公共交通などを含めて全体的なまちづくりという観点でできている制度です。 川西赤十字病院については、今回の立地適正化計画の中でも指標として位置付けられており、20年後も存続を目指すことを目標としています。
24 12/20	望月支所	望月地域は過疎債が入っている。都市計画の中で過疎債は使われるものなのか。	望月においては、ハードだけでなくソフト事業も含めて、過疎債を使った色々な事業を行っています。 佐久市では平成28～32年度で過疎地域自立促進計画を立てており、それに基づき望月のまちづくりを進めてまいります。